オピニオン

市民に身近な電力供給

未来の事業に応援を

ちょっと一言

兵庫県宝塚市で、再生可能エネルギーによる市民発電事業を手がける宝塚すみれ発電。「地域住民に身近な電力、次世代につなぐ市民発電所を目指しています」。

井上社長はもともと食の安全、安心を求め全国を飛び回っていた。その時に目にした原子力発電所は「安心、安全だろうか」と感じ、たどり着いたのが自然エネルギー。そして、2011年3月11日に発生した東日本大震災と原子力発電所の事故。「再生可能エネルギーに関わりたい」との思いを強くした。

12年5月に立ち上げた「新エネルギーをすすめる宝塚の会」は、9月にNPO法人に認定され、宝塚市に「宝塚すみれ発電所第1号」を完成させた。新たに合同会社を設立したが、資金調達がしやすいようにと、13年12月には株式会社「宝塚すみれ発電」を設立した。

現在までに6発電所が稼働。「それぞれがモデルとなる市民発電所」だ。例えば、第3号発電所は、宝塚市と連携した事業。井上社長の熱意が宝塚市を動かし、同市が再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例を制定し、実現した。同発電所は災害時には地域に電力を開放する仕組み。また、コープこうべの「コープでんき」に供給も行っており、地域に電力を還元。第4号はソーラーシェアリングモデル、第5号は中古パネルの採用、第6号は「共感寄付」による事業だ。

次なる展開はバイオマス発電。「兵庫県の酪農家が抱える牛のふん尿問題を解決したい」とふん尿からバイオガスを作り、発電事業につなげる。3年後の事業化に向け動きだした。

取引金融機関は池田泉州銀、尼崎信金。

金融機関には「地域にとって未来のある事業とは何か。将来を担保するには不安もあるでしょうが資金面で応援してほしい」と強調する。（大阪）

宝塚すみれ発電　社長　井上（いのうえ）　保子（やすこ）氏（59）

（写真・文＝山﨑　行雄）